



広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の創造

広島県における 「学びの変革」に向けたチャレンジについて

広島県教育委員会教育長 下崎邦明



本県における学力向上の経過と現状

文部省に
よる正
指導

報告書の
提出

学力否定の
時代
学力向上軽視
の時代

学力の復権
学力向上の施策の開始
基礎学力重視の時代

学びの変革へ
主体的な学びの
時代へ

平成
10年

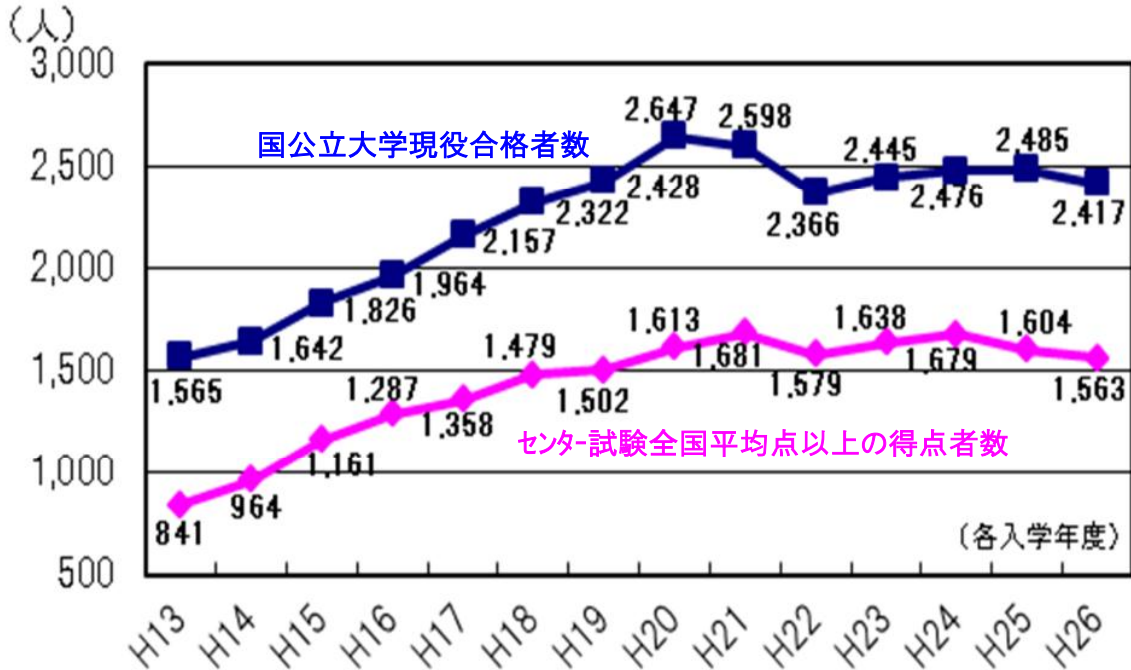
平成
13年

平成
26年

本県における学力向上の経過と現状

－ 是正指導以降の学力の推移

◆ 県立高等学校の国公立大学現役合格者数及び大学入試センター試験の全国平均点以上得点者数



本県における学力向上の経過と現状

－ 本県学力の現状認識(学力の3要素)

区分	小学校	中学校	高等学校
要素1 [基礎]	○	○	○
要素2 [活用]	△	△	△
要素3 [意欲]	高	中	低

【要素1・2関係】知識・技能の習得・活用の状況(小・中)

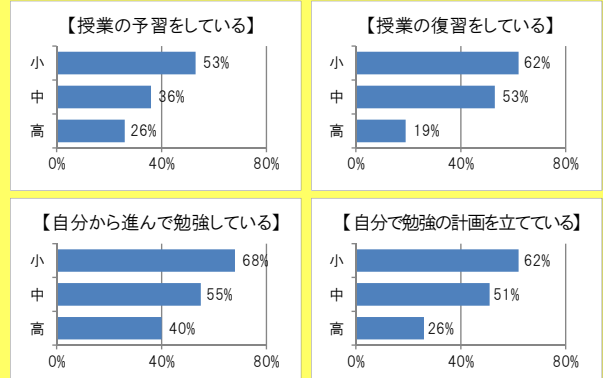
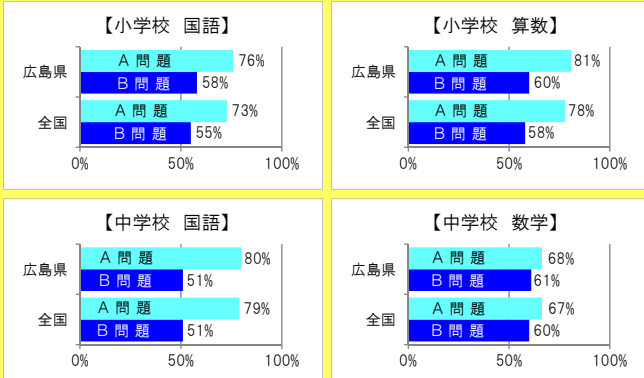
【要素3関係】学習意欲の状況(小・中・高)

- A問題(知識に関する問題)・B問題(活用に関する問題)ともに全国平均以上
- A問題に比べてB問題の平均正答率が低く、知識の活用に課題がある

- 授業の予習・復習の状況や学習に対する主体性を問う調査項目を校種別に比較すると、学年が上がるにつれて学習意欲が低下している

【H26全国学力・学習状況調査の平均正答率】

【H25広島県基礎基本定着状況調査(小・中)／H25広島県高等学校共通学力テスト(高)】



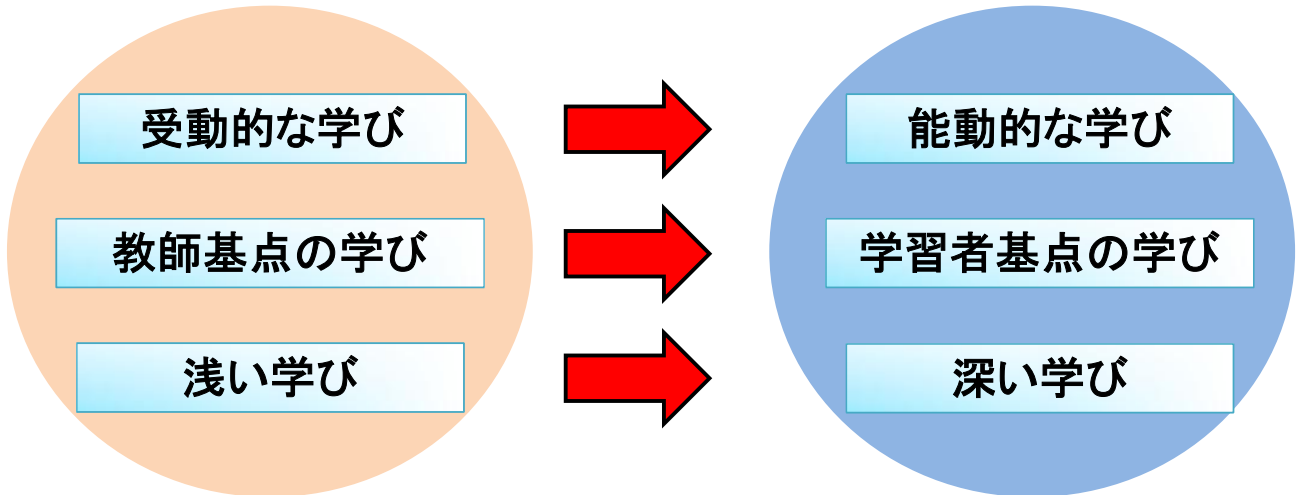
※ 生徒質問紙調査において「あてはまる」と回答した児童生徒の割合

広島県が目指す「学びの変革」

— 「主体的な学び」への転換

「知識の量」から「知識の構造」へ
— 知識の質が、知識の量と同じくらい重要 —

主体的な学びとは？



4

2015.3.11 hiroshima prefectural board of education

「広島版『学びの変革』アクション・プラン」策定に向けた検討

◆ 有識者との意見交換会(メンバー)

氏名	役職等
今井 むつみ	慶應義塾大学 環境情報学部 教授
大竹 美喜	アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)創業者・最高顧問
隈元 美穂子	国際連合訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所 所長
坂越 正樹	広島大学 副学長
坂田 淳二	Prime Field Asia Limited CEO, ARIGATO HOCKEY 代表
滝村 典之	マツダ株式会社 人事室 副室長
田熊 美保	OECD(経済協力開発機構)教育スキル局シニア政策アナリスト
坪内 南	一般財団法人教育支援グローバル基金 理事・事務局長
村上 雅人	芝浦工業大学 学長
湯崎 英彦	広島県知事
下崎 邦明	広島県教育委員会教育長

⇒ 平成26年5月から9月にかけて、計3回開催

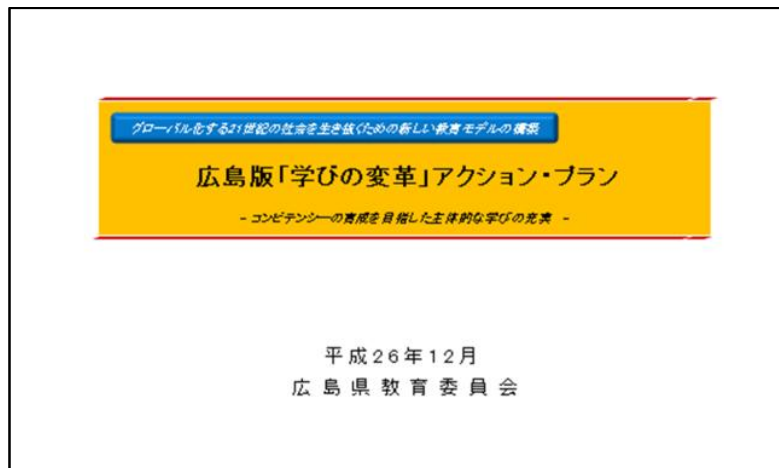
⇒ その後、県議会における審議などを経て・・・

5

2015.3.11 hiroshima prefectural board of education

「広島版『学びの変革』アクション・プラン」の策定

平成26年12月19日 「広島版『学びの変革』アクション・プラン」策定



【広島版『学びの変革』アクション・プランとは】

- ◆ グローバル化する21世紀の社会を、子供たちがたくましく生きていくための、新しい教育モデルの構築を目指すもの。
- ◆ これからの新しい教育の方向性(学びの変革)と、それに対応した6つの施策を整理。
- ◆ 6つの施策それぞれについて、10年後の目指す姿と、今後5年間のアクションプランを整理。

6

2015.3.11 hiroshima prefectural board of education

育成すべき資質・能力(社会の変化)

－ 「学び続ける力」の育成

プラン本体P5

＜社会の変化に対応して求められる資質・能力＞

これからは、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として、飛躍的に重要性を増すとともに、それらを駆使して新たな付加価値を生み出していき、いわゆる「知識創造社会」の時代に突入

知識創造社会の特質

- ✓ 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む
- ✓ 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる
- ✓ 知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要となる
- ✓ 性別や年齢を問わず参画することが促進される

【背景】
情報通信技術 (ICT)
の目覚ましい発達

【これまで】 産業化社会

物事が「規格化」され、「大量生産」する体制が整備

「階層的な組織」のもとで、「分業化」

「継承されてきた知識」を効率的に学び、「規則的」に仕事

Point ; 「何を知っているか」

【これから】 知識創造社会

物事が「複雑化」し、「多品種少量生産」等の「柔軟」な対応が必要

「ゆるやかなネットワーク」の中で、みんなで「協働」

「日進月歩で生まれる知識を活用」して、「創造的」に仕事

Point ; 「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」

- ◆ このような「変化の激しい社会」では、学校で学んだ知識や技能を定型的に適用して解ける問題は少ない

- 問題に直面した時点で集められる情報や知識を入手し、自ら深く考え、それを統合して新しい答えを創り出す力が必須
- アイデア・情報・知識の交換や共有、アイデアの深化や答えの再吟味のために他者と協働・協調できる力が必須
- 協動的・創造的な問題解決のために、どのような分野においても、「**学び続ける力**」が基礎となる

7

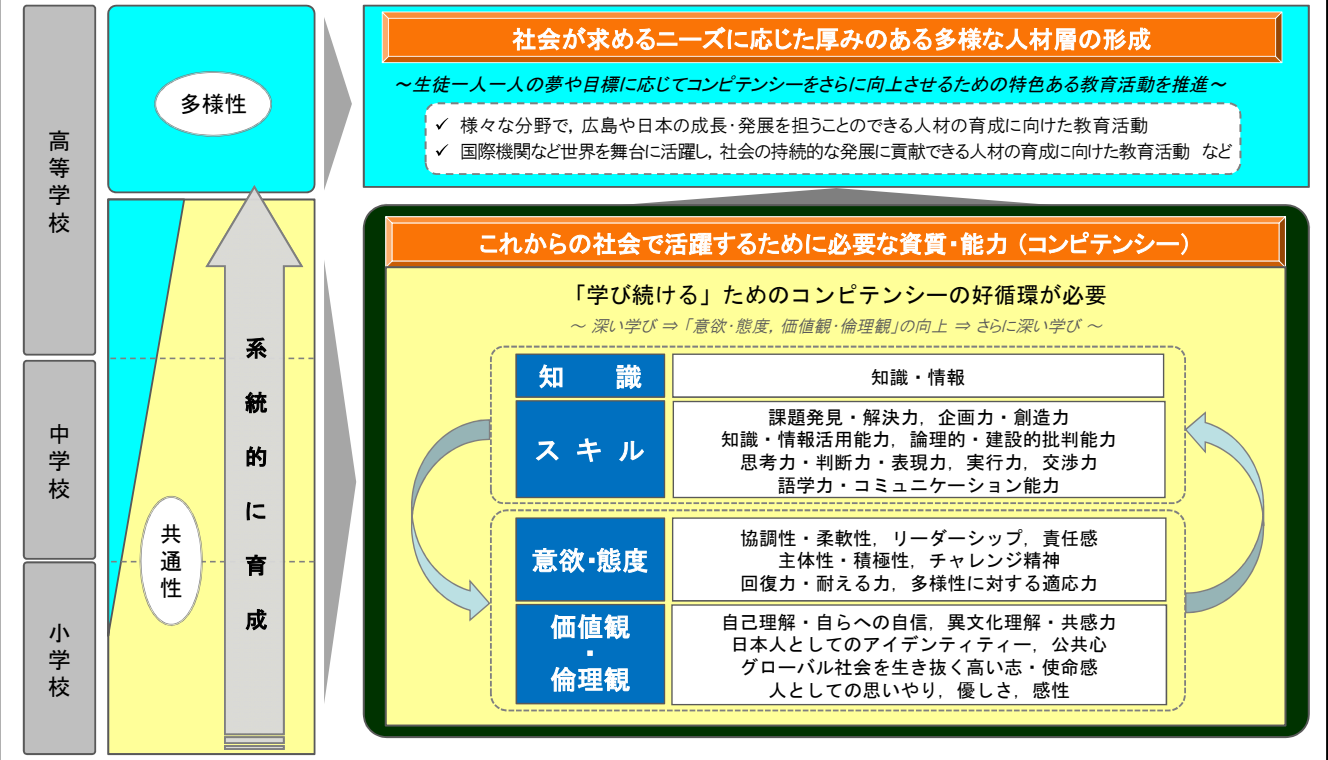
2015.3.11 hiroshima prefectural board of education

育成すべき資質・能力

－ 「学び続ける」ためのコンピテンシーの好循環

プラン本体P6

<児童生徒に育成すべき資質・能力>



これからの新しい教育の方向性

－ コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び

プラン本体P7

<広島版「学びの変革」－学び続ける力の育成－>

これまでの『知識ベースの学び』に加え、『コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び』を促す教育活動を積極的に推進する

知識ベースの学び

< 受動的 >

－ 知識の習得重視 －

「何を知っているか」を重視



- 知識の習得 ⇒ ○
- 知識の活用 ⇒ △
- 学習意欲 ⇒ △

コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び

< 能動的 >

－ 資質・能力(知識, スキル, 意欲・態度, 価値観・倫理観)の育成重視 －

「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」を重視



【コンピテンシー4要素の向上】

- 「活用・協働」⇒ より深い知識の習得+スキルの育成
(思考力・判断力・表現力)
- 「～できる」⇒ 学びに価値を認め、意欲・態度が向上

学力観

授業観

<知識伝達型>

- 目標(知識)積み上げ方式
- 知識伝達, 1時間完結, 個人の学び
- 各教科で縦割りの授業

<活用・協働・創造型>

- 目標(～できる)から逆算した授業設計
- 課題設定, 単元全体での学び, 協働的な学び・多様性の受容
- 各教科の枠を超えた授業(探究・創造)
- 実社会との繋がりを重視した体験的な学びを重視

これからの新しい教育の方向性

－ 「課題発見・解決学習」「異文化間協働活動」

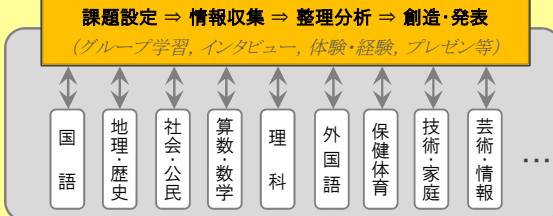
プラン本体P8

＜これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育活動の方向性＞

- ◆ 児童生徒の主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」や「異文化間協働活動」を通して、次のような人材の育成を目指す
 - 自ら深く考え、自分の言葉で自分自身や広島・日本のことを語ることでできる自立した人材
 - 多様性を受け入れ、自信を持って異なる文化の人とコミュニケーションを取ることでできる人材
 - 様々な人々と協働して、答えのない諸課題に対し失敗を恐れず果敢に挑戦し続け、新たな価値を創造することでできる人材

課題発見・解決学習

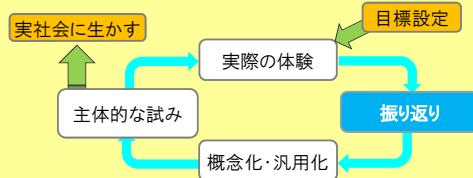
各教科で習得した知識やスキルを活用し、異なる価値観を持つ人々と協働して、答えのない問題から最善解を創造



※ 複雑化・高度化する実社会との繋がりを意識して児童生徒が自ら課題を設定

異文化間協働活動

自ら体験し、違いに気づき、多様性を受容する中で、グローバル・マインドを涵養し、実践的なコミュニケーション能力も向上



※ 体験を通して自分自身の行動や考えを深く振り返ることが重要

【系統的な取組イメージ】

区分	小学校	中学校	高等学校
ねらい	自分を知り、受け入れる多様性に触れる	自分の意見を主張する違いに気づき、多様性を受容する	地球的視野に立ち主体的に行動する
課題発見・解決学習 (テーマ事例)	地域の暮らしや伝統文化、諸課題など	広島伝統文化・歴史、諸課題など	日本の伝統文化・歴史、地球規模の諸課題など
異文化間協働活動 (活動事例)	グローバル・キャンプなど(異なる文化の人と触れ合う)	グローバル・キャンプなど(異なる文化の人と共同体験)	姉妹校交流・海外留学(異なる文化の人と協働体験)

10

2015.3.11 hirosshima prefectural board of education

10年先を見据えた施策展開(概要)

プラン概要P2

施策1 育成すべき人材像の具体化

- ◆ これからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の育成を目指した教育活動を実践するための評価指標を開発し、教職員や児童生徒の間で目標の共有化を図る

施策2 課題発見・解決学習の推進

- ◆ コンピテンシーの育成に効果の高い「主体的な学び」を促進するため、総合的な学習の時間をはじめ、各教科等の学習において、「課題発見・解決学習」を推進する

施策3 異文化間協働活動の推進

- ◆ これからの社会で活躍するためのベースとなるグローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力の育成に向けて、小学校段階からの系統的な「異文化間協働活動」を推進する

施策4 厚みのある多様な人材層の形成に向けた学校の体制整備

- ◆ 社会が求めるニーズに応じた厚みのある多様な人材層の形成に向けて、県立学校の体制整備を早急に進める

施策5 教員の採用育成方針の整備

- ◆ コンピテンシーの育成を目指した教育の実践に向けて、教員の採用育成方針の抜本的な見直しを行う

施策6 県全体の機運醸成

- ◆ 県民総ぐるみで児童生徒や学校の新たな挑戦を応援していくため、県全体の機運醸成を図る

＜主な取組例＞

- 小・中・高等学校においてモデル校を指定し、実践事例の研究開発(平成30年度を目途に全県展開)

など

- グローバルキャンプなど「異文化間協働活動」を行う学校の支援体制の整備(「異文化間協働活動コーディネーター」の育成・配置の検討)
- 高校生の海外留学、姉妹校交流の更なる促進

など

- 県内各地域のコンピテンシー育成教育の拠点となる併設型中高一貫教育校の設置
- 複数の専門学科からなる専門高校の設置
- 従来の定時制・通信制課程の枠組みに捉われない学校(フレキシブルスクール[仮称])の設置
- 地域の医療や教育を支える人材を育成する学校の整備(医師・教員類型の設置)
- グローバルリーダー育成校[仮称]の設置検討

- 中核教員研修や海外長期派遣研修の実施
- 広島版「教員養成塾」の実施検討

など

- 広島県教育フォーラムの開催(児童生徒の「課題発見・解決学習」の成果発表、高校生グローバルサミットなど)
- 学校の取組を支援する基金の設置

など

11

2015.3.11 hirosshima prefectural board of education

平成27年度における主な取組

◆ 「学びの変革」牽引プロジェクト

- ・国内外の大学等との連携による先進事例の調査研究
 - － 主体的な学びを促す指導方法等について調査研究を実施
- ・海外大学等長期研修派遣の実施
 - － 教員等を海外大学・海外インターナショナルスクール等に派遣

◆ 小・中学校課題発見・解決学習推進プロジェクト

- ①「学びの変革」パイロット校事業
 - － パイロット校を指定し(30校),「課題発見・解決学習」に関するカリキュラム等を研究開発
- ②学力向上チャレンジ事業
 - － 基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られる地域において,小・中学校が一体となり,「探究」「活用」の視点を取り入れた「習得」の学習活動の研究等に取り組む

◆ 高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト

- ①「学びの変革」パイロットハイスクール事業
 - － パイロットハイスクールを指定し(24校),「課題発見・解決学習」に関するカリキュラム等を研究開発
- ②「未来探究セミナー」の開催
 - － 全校の参加希望生徒を対象に「広島の未来」について考える合同プロジェクト学習を実施

◆ 異文化間協働活動推進事業

- ①外国の教育行政機関等との協定を活用した短期留学プログラムの開発(イタリア,アメリカ西海岸等)
- ②異文化間協働活動支援員の配置(2名)
- ③英語教員に対する戦略的な指導力向上対策の実施(海外短期派遣研修の拡充等)

今後の課題

- 各学校・各教職員が、「型」にはまることなく、多様な子供たちの状況に応じた創意工夫を行えるよう、どのように支援していくべきか。

※ 「答えのない課題に取り組ませればよい」などのように課題設定のみを工夫すればよいという誤解や、「グループ学習に取り組ませればよい」などのように指導方法のみを工夫すればよいという誤解に陥ることなく、育成すべき資質・能力の全体像・構造を認識し、その育成に向けた多様な実践を開発していくことが重要。

現時点での考え方

⇒ 次ページの参考資料のように、「考え方」「ポイント」などについては県教委としてしっかりとイメージを示しつつ、具体的なカリキュラムや指導方法等は、様々な理論モデル等も紹介しながら、それぞれの学校で議論を行い、各教職員が主体性を持って実情を踏まえた実践を開発していく予定。

- 児童生徒の「知識・技能の深まり」や「汎用的能力」の評価について、どのように考えていくべきか。

現時点での考え方

⇒ 来年度からの「課題発見・解決学習推進プロジェクト」において、カリキュラムや指導方法のみならず、評価方法についても、様々な研究者の方々のご指導をいただきながら、研究開発を進めていく予定。

- 広島版「学びの変革」アクション・プランが目指す方向性について、どのようにして保護者などすべての県民の共通理解を得ていくか。

現時点での考え方

⇒ 児童生徒の「課題発見・解決学習」の成果発表会の開催、有識者を招いた公開討論会の開催、市町教委・PTA主催のイベントにおける説明など、あらゆる機会を通じて、周知を図っていく予定。

